

Exhibit 176

亞東國際宣誓證詞

亞米利加合衆国外

對

口供の書

荒木貞夫外

私、岡田啓介ハ良心ニ誓ツテ次ノ事ノ眞實ナルコトヲ宣誓スル。

私ハ田中内閣ニ於テ一九二七年(昭和二年)四月二十日ヨリ一九二九年(昭和四年)七月一日迄海軍大臣テアツタ。齋藤内閣ニ於テ一九三二年(昭和七年)一五月二十六日ヨリ一九三三年(昭和八年)一月一日迄海軍大臣テアツタ。一九三四年(昭和九年)七月八日ヨリ一九三六年三月八日迄内閣總理大臣テアツタ。先づ一九二八年(昭和三年)陝西寧部内ニ亞細亞大陸ニ造出セントスル一派的氣運ガアツタ。

當時ノ首相田中大尉ハ大陸ニ國スル政策的計略ヲ持ツテ居リ、張作霖ヨリ重兵ナ新嘉義ヲ國ク之遣致證體ヲ新嘉義スノク代表ヲ新嘉義ニ派遣シタ而シテソノ隨嫁ハ新嘉義一派の平和狀態が保タレル場合ニ於テ始メテ最初ノ計略ナリニ付體ヲモ、テアツタ。前述ノ田中内閣ノ平和ヲ保ツ事ニウツアモ張作霖ヲ新嘉義ニ居ラセバモ、北支那三層ラテハイケナイト事ヘタ。ソレ故新嘉義ノ内閣ヲ遷ケル爲前述張作霖ガ奉天ニ向ヒ出立シ、ソシテソノ

途中飛行ノ事故ニヨリ被サレタノアル。之ガ内閣ニ達シタ時前田中首相ハ非常ニ添リ「陸軍ガソソナ事ヲヤツテハ、吾々ノ計画ヲ進メル事ガ不可能ナル」と述べタ。更ニ前田中首相ハ再び大臣ニソノ職ナ事件ガ運ラヌヤウ責任者ヲ陸軍ニ處罰セホバナラスト述べタ。其ノ後、私ト内相白川大尉トノ會議ノ席上前田中首相が直ニ之内シ陛下ニ此ノ事件ニ就テ表上スル事ニ意見ノ一端ヲ見タ。前田中首相ハ陛下ニ御内閣後宮中ヨリ内閣ニ至リ陸相ニ進ンテ強作暴法書ノ責任者ノ處罰ヲ頼ケルヤウ指示シタ。前述白川大尉ハ陸軍省へ戻ツタカ同運暴書ノ責任者ノ處罰ニ内シテハ宣傳局長山元前軍ト參謀総長金谷節三大尉が陸軍部内ノ問題ヤ懲戒ハ陸軍方當ルベキダト考ヘテ辰夕爲ニ思フヤウニ行カナカツク。首相ノ田中大尉が陛下ニ犯罪者達ハ陛下ノ御希望通りニ處罰シ得ナカツタ爲田中内閣ハ悔悟致シタ。

國東堂ハ此ノ事件ニ依ツテ、國東事方東京ノ日本政府ニヨリ強力アリソノ勢力ハ參謀本部迄ニモ及ンテキルコトヲ立證シタノアル。

私が内閣内閣ノ勤務七ヶ月間経過テアツタ間ニ内閣ハ首相清高大尉が陸軍ノ軍事ノ創意及ビ陸軍ノ軍事追加ヲ拒否スル事象ヲ進行シタ爲非常ニ難局ニ達シタ。

私ハ一九三四年（昭和九年）内閣總理大臣ニナツタ

時ニハ陸軍ノ勢力ハ強クナリツアツタ。一九三五年（昭和十年）最晩益三郎大將が政官總監ノ地位ヲ達ハレタ。當時中曾根文三郎官監シテ軍事局ニ掌管シ、軍事局長水田中將ヲ殺シタ。私ハ首相トシテ相済事件ヲ非常ニ遺憾トシ此ノ將校ノ過誤ヲ促シシガ陸軍ハ勝手ニ可立フ迄メ首相ヤ内閣ノ介入ヲ許サナカツタ。私ハ首相テアツテモ一介ノ陸軍將校ニヨツテ犯サレタ此、犯罪ノ調查ニハ無力テアツタ。

當時ハ赤穂十郎大將が陸相テアツタ。宣傳局長テアツタ前述水田將軍、暗殺後私方一派互ニ怨サレル迄一説ニヤラウ。ト言ツテ前述ノ赤大將ヲ讒撻シ候功キイタガ、彼が閣内ニ留任云承コトヲ拒シタ。前述赤大將ハ自分方閣内ニ留マルコトハ軍部ノ不安動搖ノ意ニアルト言ツテ全大將連方主立フ陽定セル川島將軍ヲ誣シタ。何人テアラウト而赤大將ノ信任ハ相當ノ危険ヲ冒スコトニナル事ハ吾々閣員ノ説ニトツニモ明察ナコトデアツタ。

一九三六年（昭和十一年）二月二十六日二十二人ノ將校ト潤千四百ノ兵が政府ニ襲シ反乱シ東京ヲ三日半ニ亘リテロ化シタ。反乱軍ハ首相官邸、議會、内務省陸軍省、衛戍團及參謀本部ヲ占領シタ。

私ノ國家高級將相、内務省長官、反ヒ達邊大將が此ノ陸軍ノ過激派ノグループニシテ謀テ殺サレタ。前内務省長官、鈴木内務省議長ソレニソウ言フ私ガ辛クモ死フ元レタ。此ノ陸軍ノ反亂ノ結果トシテ私ノ内閣ハ總辭職シタ

岡田 勲 介

（自署）

日本国東文二年會議會ニ於テ一六四六年（昭和二
十一年）六月十七日左ニ書名セバ士官ノ前ニ於テ
前記岡田啓介ニヨリ宣誓シ書名セラレタリ

法務局大臣

ハリマン・ドースイー（宣誓）

証明書

予ハ、予・フレッド・E。会川ガ日本語、英語
ニ通じセル事、反ビ本日前記岡田啓介ニ以テ口供
書ヲ日本語ニヨツテ漢訳カセ、且ソウスルコトニ
於テソノ內容ヲ漢訳ニ且正直ニ譯シ日本語ニ
翻訳セシ事、及時岡田啓介ハ予ニ該口供書ノ內容
ハ眞實ナリト申述べ且後ハ漢ンテ宣誓シテ該口供
書ニ署名セントセシ事、反ビ岡田啓介ハ予ノ面
前ニ於テ正直ニ宣誓シ予ノ西首ニ於テ署ツテ署名
セシ事、反ビ該宣誓反證口供書署名ノ正直ニ附合
セル全手書ハ眞實且正直ニ日本語ヨリ英語ニ次第
ヨリ日本語ニ譯セラレ且証人ニヨリ完全ニ譯
シ全手書セラレタル事ヲ既度ニ記スルモノ也

11, 11-1

日本ニ東京ニ於テ

一九三六年（昭和十一年）六月十七日

赤 喜 重 少 將

フレッド・エ・スコット（宣讀）